

授業科目名 (英文名)	組織学			
担当教員 (所属)	二階堂 敏雄(医学部), 吉田 淑子(医学部)			
授業科目区分	専門教育科目 医学一般	授業種別	講義科目	
開講学期曜限	前期・その他	対象所属	医学部医学科	
時間割コード	151207	対象学年	2年	単位数 3単位
連絡先 (研究室、電話番号、電子メール等)	再生医学講座 (医学部研究棟 4 F) 内線7212 教 授 二階堂敏雄 tnikaide@med.u-toyama.ac.jp 准教授 吉田淑子 yosidato@med.u-toyama.ac.jp 助 教 岡部素典 okabe@med.u-toyama.ac.jp 助 教 小池千香 koike@med.u-toyama.ac.jp			
オフィスアワー (自由質問時間)	随時 (ただし事前に予約すること)			
リアルタイム・アドバイス : 更新日 12/03/12				
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け (一般学習目標)	教育目標	細胞、組織、器官の構造的特徴およびそれらの関係について概説できる。		
正常な人体での臓器の位置、概観をふまえた上で、細胞、組織、器官の関係を把握する。また、細胞、組織、器官それぞれの構造、微細構造学的な特徴を学習する。				
達成目標				
授業終了時に以下のことを学習していることが期待できる。 1.組織標本の作成方法および理論について概説できる。 2.人体組織の構造および微細構造の観察方法について概説できる。 3.細胞の微細構造について概説できる。 4.細胞、組織、器官の関係を説明できる。 5.組織の名称が列挙できる (主要な名称については、英語と国語で表記できる)。 6.組織の構造学的な分類を概説できる (主要な分類については、英語と国語で表記できる)。 7.組織の構造および主要な微細構造を説明できる。 8.組織の主要な構造名を英語と国語で表記できる。 9.組織の主要な微細構造名を英語と国語で表記できる。 10.組織の構造および微細構造と機能の関係について概説できる。 11.人体を構成する器官の位置と形態について概説できる。 12.器官を構成する組織の名称が列挙できる。 13.器官の構造および主要な微細構造について概説できる 14.器官の構造に関する主要な部位、構造の名称については、英語と国語で表記できる。 15.器官の構造および微細構造と機能の関係について概説できる。				
授業計画 (授業の形式、スケジュール等)				
授業計画詳細に従って、講義および実習を実施する。 講義：講義室において、スライド、板書、プリントによる資料を用いて講義を行う。 実習：情報処理室 (大) にて、バーチャルスライドシステムおよび光学顕微鏡を用いて組織標本を観察し、組織学的特徴をスケッチする。				
キーワード	細胞、組織、器官、光学顕微鏡、電子顕微鏡、微細構造、上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織、消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、リンパ系、感覚器系			
履修上の注意	1.実習は情報処理室 (大) で実施するので、入室には学生証が必要。実習開始直後に実習内容について説明するので、実習開始までには、指定の席に着席し、実習の準備を開始すること。 2.実習のスケッチの為に、無地のノートおよび色鉛筆 (12色程度) を準備する。 3.実習はすべて出席すること。止むを得ず、欠席する場合にはあらかじめ、教官に連絡すること。 4.目の前の微細構造にのみとらわれるのではなく、人体全体、臓器全体を絶えず頭に描き、形態と機能の関係について注意を向けながら学習することを期待する。			
教科書・参考書等	教科書： 1) ジュンケイラ組織学Junqueira's Basic Histology Text &Atlas Anthony ; L.Mescher, 坂井建雄/川上速人 監訳、丸善株式会社、 2) 標準組織学総論・各論 (第 4 版) ; 藤田尚男、藤田恒夫著、医学書院 参考書： 1) 最新カラー組織学 ; LP.ガトナー、JL.ハイアット著、西村書店、 2) カラーアトラス機能組織学 ; 藤本豊土、牛木辰男 監訳、南江堂、 3) からだの構造と機能 ; A.シェフラー、S.シュミット著、西村書店、 4) 入門組織学 ; 牛木辰男著、南江堂 など			
成績評価の方法	毎回、実習後に提出するノートおよび筆記試験 (講義および実習) の結果を総合的に評価する。			
関連科目				
リンク先URL	http://www.med.u-toyama.ac.jp/saiseigaku/index.html			
オープン・クラス	受入不可：	単位互換	受入不可：	
備考				